

多くは盜竊であつて、粗惡見るに堪へないものが臆面もなく出版されたのである。處が筆者の所藏に明治九年の平田槲の作つた「大日本國圖」がある。これは方格圖で勿論赤水圖の亞圖ではあるが、京都の銅版工福富正爲、正利の二人がかゝつて朝鮮の略圖まで加へたものである。が

この圖には緯度は従前通りであるのに、經度は東京〇度で起算し、東四度から西十四度に至る經線を引いてゐるといふ新意があるのである。同時に山脈はすべてケバ書きにかはつてカッパ摺になつてゐるのである。

(未完)

世界戰後の地名考 (六)

瀧川規一

アヅウール(Adour)。佛蘭西の河。古代アッルス(Aturus)と稱した河。ブレニース山脈に發しオート・ピレネ(Hautes-Pyrénées)、ジール(Gers)、ランド(Landes)の地方を流れてビスケ灣(Bay of Biscay)に注ぐ。長さ二百哩、そのうち八十哩ばかりは航行も得、諸處に運河を設く。

アドウア(Adowa, Aduwa 又は Adoa)。アビ

シニア(Abyssinia)國の都會。チグレ(Tigré)州の首府。海拔六二七〇呎の高地にあつて、チグレの内地と海岸との貿易中心地であり人口五千。

一八九六年三月一日伊太利軍はこの地に於て佛蘭西製ライフル銃を以て武裝せるアビシニア人の爲めに敗れた。夜間進軍中伊太利將軍の計畫が齟齬し伊太利軍は敵の攻撃を受け戦死者

六千人を出し四千人が捕虜となつた。アビシニア人も亦損害を蒙ること甚しくその結果伊太利軍の侵入が停止され平和條約が結締された。

アドラミチ (Adramythi)。土其古語にてはアドレミド (Adremid) と稱する處。小亞細亞の海港。

アドラミチ灣の海角に位置し、ミチリーニ (Mitylene) 島と相對し、スマーナの北八十哩にある。古代のアドラミツム (Adramythum) と稱せられた處が附近にある。

アドラル (Adrar)。サハラ (Sahara) の三大地方、北アドラル、西アドラル、東アドラルの總稱。

アドリアノーブル (Adrianople)。希臘語にてはハドリアン (Hadrian) の都會と云ふ意味でハドリアノポリス (Hadrianopolis) と稱す。土其古の都會。土其古人はエヂルネ (Edirneh) と呼んでゐる。マリツツア (Maritza) 河とツンハ (Tunja) 河との合流點に位し、コンスタンチノー

ブル (Constantinople) より鐵道によつて西北西一三七哩にある。シーリム (Selim) 二世によつて建立された十六世紀の回教寺院、廢墟となつてゐる宮殿、ビザンチウム式の橋梁があり加ふるに宏大なる市場、病院、學校、兵營がある。希臘大僧正の居住地である。人口三萬四千七百。

この都會は初めウスクダマ (Uskudama) と呼ばれたが皇帝ハドリアンが紀元一二五年頃に改築したので、皇帝の名を襲うてハドリアノポリスと改稱された。一三六一—一四五三年に至る間はオットマン帝國 (Ottoman Empire) の首府であつた。露土戰爭後一八二九年九月十四日この地に於て協約に調印された。

紀元三七八年八月九日に行はれた所謂アドリアノーブルの戰鬪は當時羅馬帝國内に移住し居りしゴート人と羅馬人との間に戰はれたが、羅馬人の敗北となつた。ゴート人の戰勝は騎兵隊の偉勳によつた。

一九一二年の十一月に始まつた最初のバルカ

ン戦争にてはブルガリア人及びセルビア人がアドリアノールを攻撃したが失敗に終り、一九一三年三月再び攻撃して、四萬の軍人と六百の砲を備へた要塞を陥落せしめた。この勝利は一九一三年五月三十日倫敦條約によつて確認されたが、第二次バルカン戦争に於てはアドリアノールは再び土其古人によつて占據され、一九一三年九月コンスタンチノール條約によつて公式に土其古人に還附された。

アドリアチック海 (Adriatic Sea)。地中海の一支海。古代にてはマール・アドリアチクム (Mare Adriaticum) と稱した。アドリアチック海は伊太利とユーゴスラヴィア (Yugo-Slavia) との間に於て西北に延びその長さ四七〇哩、中幅一一〇哩、面積は島嶼を含めて五二、〇〇〇平方哩である。西海岸は比較的低く數個の入江がある。東海岸は峻險にして岩石より成り土地不毛にして山岳多く島嶼によつて縁とられて居る。ダルマチア (Dalmatia) 及びアルバニア (Alba-

nia) の海岸は風景佳絶にしてカタロ (Cattaro) 附近にては海より直に高山が屹立してゐる。西海岸及び島嶼にては住民は漁業によつて生活してゐる。西海岸にある主要港はヴェニス (Venice)、アンコーナ (Ancona)、バリ (Bari)、ブリンディシ (Brindisi) であり、東海岸の主要港はツリエステ (Trieste)、ポーラ (Pola)、フィウメ (Fiume)、ザーラ (Zara)、ラグサ (Ragusa)、カタロ (Cattaro)、ズラツォ (Zurazzo)、アブローナ (Avlona) である。

世界大戰當時アドリアチック海の制海權を得んが爲に戦鬪が行はれた。塊地利人は伊太利沿岸に侵入したが、一九一六年には伊太利はアルバニアに軍隊を上陸せしめた。獨乙國は潜航艇を送つて伊太利艦隊に多大の損害を與へた。英國は掃海艇を送り敷設水雷等の危険を除かんとした。これは伊太利をして戦争にひき入れ、伊太利軍は漸次優勢となり塊地利の海軍根據地であるポーラに再三入るを得た。一九一八年には

オトラント (Otranto) 海峡を閉塞することによつて敵艦隊をしてアドリアチック海に入る能はざらしめることの可能であることが判つた。一九一九年には東海岸即ち塊地利の海岸をその島嶼と共に伊太利が所有することによつて困難なる問題が起り一九二〇年にラパロ (Rapallo) の協定によつて伊太利及びユーゴスラヴィアは妥協し兩國は夫々領土を得た。

アダア (Adur)。 英蘭土サセックス (Sussex) の河。長さ二〇哩帆船の舳によつて航行可能である。シヨアラム (Shoreham) にて英海峡 (English Channel) に入る。築港によつてヨット船製造が行はれ、世界大戰當時ヨットの造船業が非常なる刺激をうけて活氣を呈した。

イージアン・シー (Egean Sea)。 希臘多島海 (Greek Archipelago)。地中海の一部分にして、希臘と小亞細亞との間にある。その長さ北より南に四〇〇哩ばかり、幅最廣き處に於て一七〇哩である。航行困難であるが魚類及び海綿を多

量に産す。數多き島嶼中主要なるものにはイウベア (Euboea) 最大にしてその他ミチリーニ (Mitylene)、セーソス (Thasos)、サモスレーズ (Samothrace)、イムブロス (Imbros)、レムノス (Lemnos)、カイオス (Chios)、コス (Cos)、セーモス (Samos) の諸島、及びスボラデーズ群島 (Sporades)、シクラデーズ (Cyclades) 群島がある。

イージアン文明 (Egean Civilization) 若くは多島海文明なる名稱は希臘文明 (Hellenic Civilization) 以前の文明であるが故にプレ・ヘレニック (Pre-Hellenic) 文明とも稱せられ、又はマイノアン (Minoan) 文明、マイシニアン (Mycenaean) 文明とも稱せられる。この文明を代表する主要都會は小アジアに於けるトロイ (Troy)、希臘に於けるマイシーニ (Mycenae) 及びタイリンズ (Thyrs)、クリート (Crete) に於けるノーサス (Cnossus) 及びフェスタス (Phaestus) であつた。シュリーマン (Schliemann) の發掘は一八七

○年ヒッサリク (Hisarlik) 即ち古代のトロイに於て開始され、タイリンズ及びマイシニに於ても續いて行はれ其結果紀元前一五〇〇年以前に上述の文明の存在してゐたことを證明した。シユリーマンはクリート島に於て更に重要な發掘物を得るであらう信じてゐた。一八九四年以來クリート島に於てイヴァンズ (A. J. Evans) その他の人々によつて發掘された結果はシユリーマンの所信を確證することになった。斯くして、紀元前三〇〇〇年頃にクリート島は石器時代より青銅器時代に移り、希臘及びマイシニーの文明よりも以前の文明を有し紀元前二〇〇〇年頃に文明の最頂點に達した。

マイノアン (Minoan) 文明なる名稱はエヴァンズ (Evans) の使用せし用語であり、イーリアン文明又は地中海 (Mediterranean) 文明と云ふ名稱よりは包括的でないとは雖も、この文明の中心としてクリート島がマイノアン朝 (Minoan dynasty) の偉大なる統治者の下にあつたこと

を示す。マイノアン朝の年代は埃及の年代記に比較することによつて略定められる。また陶器の土中物によつてもその文明の發達の諸階梯が示される。これを初期中期後期の三階梯に別ち更に三小期に分つ。文明の全期を蔽ふ年代は紀元前三〇〇〇年より紀元前一〇〇〇年に至るのである。ノーサス (Cnossus) 及びフェスタス (Phaestus) にあつた最初の宮殿は紀元前二〇〇〇年頃に建築され、紀元前一七五〇年頃に破壊された。クリート島の黄金時代は紀元前一五〇〇年より紀元前一四〇〇年に至る一世紀間であつて、その末頃には侵入者が來り、ノーサスの宮殿は焼かれた。紀元前十四世紀には既にマイノアン文明の衰微を認め紀元前十一世紀にはその轉覆を見たのである。

エヴァンズがつきとめた宮殿の遺物は古代のラビリンス (Labyrinth) を基礎にし複雑なる配置法によつて確證されたのであるが、宮殿の遺物は高級の建築的才能を示して居り、そのうち

にも最も興味あるものは玉座室(Throne Room)二重斧の廣間(The Hall of the Double Axe)、皇后宮(Queen's Hall)である。二重の斧は或は拜物教の神體であつたかも知れない。各室の壁には壁畫があり宗教的な行列や闘牛や拳闘その他の國民的生活を表はしてゐる。

衛生設備の卓越を示して居ること、婦人の服裝が近代の社交界の婦人の服裝に似てゐることとに驚く。

この文明を有してゐた民族は所謂地中海民族と稱せられたものならんと思爲され、人種の特長は頭部長く、顔色黒く、身長短かくあつたことである。記載には最初は繪畫による方法を用ひ後には線による方法を用ひたらしい。多くの標本が發掘されたが未だ解釋がつかない。彼等は海上生活を主として營み廣汎な區域に亘つて通商をなし殊に埃及と貿易をなして居たらしい。クリート島人は大工及び金屬工として優れてゐたが農業は多く營まれてゐなかつたらしい。金

屬の通貨をもつてゐた。またバビロニアに起原を有する重量を計る方法を採用してゐた。クリート島人が信奉してゐた主要なる神様は自然の女神であり、これに従屬する若い男性の神があつた。女神は後に希臘の種々なる女神と同一視され、男神はデウス(Zeus)と同一視せられた。

イージャイナ(Aegina)。希臘の島、古代の都會。希臘多島海の出口にして、サロニク(Saronic)灣又はイージャイナ灣と稱する灣内にある。面積四〇平方哩。島の西海岸は礫の地であるが、主として山國なれども地味肥沃である。穀類・葡萄酒及び果實を産し陶器を製造品とし海綿採集業は貴重なる生業である。イージャイナ市は紀元前四五六年頃に長期の包圍の後にアゼンス人によつて奪取された。市の起原は古くドリアン以前の時代(Pre-Dorian Age)に遡る一八一一年アフエア(Aphaea)の殿堂の廢墟に於て重要な彫刻が發見され獨乙のミューニヒ(Munich)に運ばれてゐる。人口八千五百。

イーゴスポタマイ (Egospotami)。スレー

半島 (Thracian Chersonese) の河。紀元前四〇五年に此處でアゼン人とスバルタ人との兩艦隊の海戦があつた。スバルタ人はライサンダ (Lysander) によつて統帥されペルシヤ艦隊の援助をうけた。アゼンスの艦隊が敗れその結果アゼンス人の海軍優越權を破壊せしめ希臘の霸權をアゼンスより奪ふことになつた。イーゴスポタマイは山羊の河と云ふ意味である。

エーリアル・ダービー (Erial Derby)。倫敦で行はれる飛行競走場を指すも、實際は倫敦周圍を飛翔して競争する飛行競走そのものを名づくるこの競走はデイリ・メイル (The Daily Mail) 紙によつて創始され同紙は金杯を提供する。一九一二年の最初の競走は英人ソッピス (T. O. M. Sopwith) が七〇馬力のブレリオ (Blériot) 單葉機を用ひて一時間六〇哩のスピードにて八一哩を飛んで一等賞を得た。一九二三年にはカーター (L. L. Carter) が一時間一九二・四哩を飛んで

賞杯を得た。

アフリック (Afric)。蘇格蘭のインヴァネスシア (Inverness-shire) の谿谷・河及び湖水の名。谿谷は英王國中最も美しき風景であると考へられて居る。河はその谿谷を流れ長さ十八哩あり湖水を経てグラス (Glass) 河に合流してゐる。

アフガニスタン (Afghanistan)。アフガニスタンは印度の西北に横たはる國であつて露西亞と印度帝國との緩衝地帯をなしてゐる。その見積り面積は二四五、〇〇〇平方哩。主として山國であり處々に深き峽谷がありまた肥沃なる低地がある。ヒンズ・クシュ (Hindu Kush) と稱する高き山脈が東北に貫きその最高峰は二四〇〇〇呎に達してゐる。氣候概して健康に適し空氣は乾燥してゐる。

然し氣溫は處によつて極端なる差異がある。年二回の收穫があり穀類野菜果實を産し殊に葡萄を産す。銅鐵金の産出があり絹布絨氈が製造される。

印度との交通には四つの経路がありそのうち最重要なる二つの経路はペシヤワル(Peshawar)からカイバ峠(Khyber Pass)を通じてゼラバド(Jalabad)及びカブール(Kabul)に至るものが一つ。他の一はクエッタ(Quetta)からボーラン峠(Bolan Pass)を通じてカンダハル(Kandahar)に至るものである。

新著紹介

○支那及滿洲地誌並地圖目錄類

近來内外各圖書館所藏にかゝる支那及滿洲に關する地誌及地圖の目錄が公にされたことは支那及滿洲の地理研究者にとりて大なる幸である。紹介者の蒐集萬目せるものを列記して見る。

國立北平圖書館方志目錄 譚新嘉 譚其讓編 民國二十二年五月 四冊(二元五角) 本目錄は支那地誌目錄として空前のものと思ふべく、採録五千二百餘部、複出を除き三千八百四十四種に及ぶ。其の所藏本の主體は清末内閣大庫にありし千數百部で既に其の目錄は江陰繆綸學部圖書館方志目として刊行されてゐるさうである。爾來國子監より移藏するもの、教

育部の徵集にかゝるもの、購入又は寄贈によるもの、之に加ふるに京師圖書館、北海圖書館舊藏のものを以てし、遂に五千二百餘部の集收を見たのである。目錄載する所は省府廳州縣志を主とし兼ねて邊鎮志衛志所志關志場志鹽井志等に及び附錄として清末の郷土志及鄉鎮志を掲げてある。各省に別つて列載してあるが福建には臺灣を附載し臺灣府志以下七部を擧げてある。遼寧に五十五部、吉林に六部、黑龍江に二十一部、熱河に三部を掲げてある。無論河北河南山東等のものは百數十部以上に達し殊に山東の如きは紙數三十七枚を費してある。支那地誌の偉觀は本目錄によつて萬丈の氣焰を擧げてゐると云へる。

金陵大學圖書館方志目 民國二十二年一月 一冊(一元)

これは洋紙横組の頁數一一八の小本である。南京の金陵大學では民國十二年以來收藏したもので當時は每冊銀一、二角を普通としたが民國十六七年以來は求者多き爲め每冊一、二角から十元になつて收集が困難となつた、それでも遂に本目錄に載する二千四百種、二萬二千五百六冊となつた。本目錄では江蘇に於て二百五部二千二百四十一冊を擧げてあり、遼寧では通志一部府志三部縣志十五部其他二部計二十一部九十冊、吉林では通志一部府志一部縣志六部其他一部計九部八十五冊、黑龍江で通志一部府志一部縣志十三部其他一部計十六部二十二冊、熱河で府志一部二十四冊を擧げて居る。本目錄には重出は一切掲げて居ない。一體支那には地誌が二萬種位は